

平成19年度「石川地方の歴史クローズアップ事業」

映画「草の乱」を見て、石川地方の自由民権運動を考える

(福島県地域づくり総合支援事業助成適用事業)

第1部 (主に小中学生対象)

PM2:00~PM4:30

講演 「自由民権運動と石川」・・・・・・ 沢田中学校 馬場哲明先生

映画「草の乱」の上映

第2部 (主に石川町内外の一般の方々)

PM5:00~PM8:15

講演「映画の背景と自由民権運動」・・・・・・ シナリオ作家 加藤伸代さん

- ・ 秩父事件の概要(映画「草の乱」背景)
時代背景、秩父の風土、事件の発端から結末まで。
- ・ 映画「草の乱」はどのようにして作られたか
資金集め、シナリオ作り、ボランティアエキストラや地元の協力、撮影中のエピソードなど。
- ・ 自由民権運動のあらまし
その中で、福島事件と石川町の自由民権運動
- ・ 結び 歴史を知ることの大切さ

映画「草の乱」の上映



石川の自由民権運動は、明治8年、全国で2番目に有志会議(後の石陽社)が結成され、河野広中を中心として、吉田光一、鈴木重謙らとともに活動したが、政府の弾圧によって、明治13年に政治結社の石陽社は解散している。憲法の制定、議会の開設という目的に向けて「日本最初の民主主義国民運動」に、郷土の先人たちが進取の志を持って、ルソー、ミル等の当時最新の思想を学び、**わが身を惜しまず行動したことは、郷土の誇りとして語り継ぐべき史実**であり、国事犯として扱われ不遇の生涯をおくられた方もあり、歴史の封印を解き顕彰していくべきである。

県助成適用のため、アンケート実施が要件になっておりますのでご記入願います。

(主催)NPO 法人ウェブゆい (共催)石陽史学会

(後援)石川町、石川町教育委員会、玉川村教育委員会、JA あぶくま石川、道の駅「たまかわ」、石川文化協会、石川町商工会、(有)江戸屋書店、(社)いわき石川青年会議所、町民ニュース、(有)夕刊いしかわ、福島民報社、福島民友新聞社、石川ロータリークラブ、石川ライオンズクラブ

(講師 加藤伸代氏のプロフィール)

- ・ 1959 (昭和34)年2月 神奈川県小田原市生まれ。
- ・ シナリオ作家協会講座16期基礎科 終了
- ・ (有)神山プロダクションに勤務し、シナリオ執筆などを担当する。
(主なシナリオ作品)
- ・ 「さくら」1993年
- ・ 「ひめゆりの塔」1995年
- ・ 「マヤの一生」1996年長編アニメーション
- ・ 「郡上一揆」2000年
- ・ 「草の乱」(秩父事件120周年記念作品)2003年

(映画「草の乱」について)・・・DVD映画ポータル紹介記事から

120年前の日本に凄いやつらがいた！ 神山征二郎監督が描いた“秩父事件”

(解説)1884年11月1日、秩父郡吉田村棕神社に刀、槍、猟銃で武装した人々3千余が集まった。“天朝さまに敵対するから加勢しろ” 明治政府に対する真っ向からの挑戦であった。困民党を名乗る人々によるこの蜂起は9日後に軍隊と警察により壊滅させられた。“自由自治元年”の幟(のぼり)にこめられた願いはかなわず、明治政府は12名の死刑、3千余名の科刑、科罰を持ってこれに報いた。世に言う“秩父事件”である。

当時、明治政府は中央集権、軍備増強を急ぎ、デフレ、増税策を推進した。世界的な不況による生糸価格の暴落と相まって養蚕農民たちは困窮していた。そこに付け込み極端な高利をむさぼる高利貸によって多くの農民が身代限り(現代で言う破産)となり田畑を取り上げられた。農民たちは各地で闘いを起こした。中でもこの**秩父の闘いは自由民権運動と結び合い、政府打倒を視野に入れた点においても江戸時代に繰り広げられた一揆と明らかに一線を画していた**。「压制を変じて良政に改め、自由の世界として人民を安楽ならしむべし」(田中千弥「秩父暴動雑録」より)彼らは、家族たちのために、苛政に痛みつけられる仲間たちのために、巨大な権力に対し自らの命をかけて立ち上がった。

あまりにも悲惨な敗北にもかかわらず、秩父事件は今も光を放つ。勝ち負けを超えて人は闘わねばならぬ時がある。家族のために、仲間たちのために、そして自分たちの未来のために。凄いやつら - そのことを信じ立ち上がった無数の無名の男たち女たちの壮大な闘いがいまよみがえる。デフレ、不況、海外派兵 あまりにも重なり合う現代の日本に闘いのバトンをわたすために。

監督は、前作「郡上一揆」で江戸時代の農民の一揆を通してその誇り高い気概を謳いあげた神山征二郎。映画「草の乱」は、70年代初期神山監督が秩父事件に出会って以来いつかはと暖めてきた企画である。そしてついに映画化実現の時を迎え、長年の監督人生をこの一作にかける。

独立プロとしては破格の4億5千万円という製作費は秩父を中核とし埼玉県、関東、日本中に広がる数百万円から数千円にいたる市民出資がほとんどをまかした。“許せない、我慢ならないという今の世の中に対する人々の怒りと苛立ちの反映”と指摘されるこの現象こそすでに“現代の草の乱”とも言われている。

当法人は昨年、「町長選立候補者による公開討論会」を、主体的に実施いたしましたが、今回はそのアフターフォローとして企画いたしました。